

誤植のお詫びと訂正

『尾道小学生紀行 2』の p.6～7 にかけてのコラムで、文意が通らない程の文章の欠落がありました。お詫びすると共に、以下に全文を掲載します。こちらをご参照下さい。よろしくお願ひいたします。

尾道鉄道跡を探し歩いてみる

尾道鉄道というのは五〇年以上前に廃線になった私鉄路線で、今のJR尾道駅から北の山の方へ向かって線路が伸びていたそうです。廃止後はバス路線というか、国道一八四号線が代替している模様。高度経済成長の只中でひたすら衰退して営業を止めたというところがなかなか興味深いが、この廃線跡を辿ろうとしている人はネット上にも結構いて、いろいろな資料を公開してくれています。なので、尾道鉄道跡を探すこと自体は割りとポピュラーな尾道での遊び方だと思われます。今はもう無くなった線路を辿ろうとすること自体は『ブ●タモリ』とかでもよくやっている遊びですね。

ただ、公共交通機関を使ってこの廃線跡めぐりをするのはなかなかしんどいのです。なぜなら、ほとんどの遺構は山の中にあり、三時間に一本みたいなバスに乗って、そこから先の数時間は自分の足で歩く必要があるからです。当然「じゃあ自動車を使えば」となるのですが、ところが自動車だとほとんどの遺構は見つけられないんじゃないかと思われまふ。一番でっかい遺構である四号トンネルですら、車道からはあまり見つけやすすくない。しかもアレなんですよ、そういうトンネルとかの大きな遺構は、六時間ほど歩き回ったのに人間とのエンカウ

トは二回だけという、『のんのんびより』みたいなエリアにあるんですが、そういう場所でも自動車自体は結構な数が走ってるんですね。しかもバイパス道だから比較的飛ばしている上にUターンし辛い。というわけで、一世紀近く前のトンネルやプラットフォームの残滓を探しにいくのは、小学生にはかなり厳しく、そして大人でもかなり人を選ぶ遊びです。

小学生にもアクセスしやすいのは、その気になれば尾道駅からも歩けるくらいのところにある橋脚跡で、市街地に唯一残されている遺構と言われています。ただ現物を見てみるとかなりびっくりするはず。だってそんな「何十年前の鉄道の跡」には全然見えないんですよ。そうだと知って見に行ってるのにわからないくらい。ただ土地の区割りをよく見ると「ああここに線路があったのかなー」となんとなく察せられます。

普通の住宅や学校が立ち並んだ明るい生活感溢れる街の中で、静かにトマソンとして余生を送っている橋脚を覗いていると、なんとも表現しがたい、暖かさのような寂しさのような、色々混じった感覚に襲われます。住宅街の中の廃墟探訪。人の営みってすげーんだなー。